

第 166 回 東葛しぜん観察会

水と緑の回廊で冬の自然ウォッチング

勝股政雄（船橋市）

日 時：2020 年 2 月 15 日（土）9 時 30 分～12 時 天気：晴れ

場 所：北国分駅～堀之内緑地～堀之内貝塚公園～じゅん菜池緑地（市川市）

参加者：13 名（大人 12 名、子ども 1 名） 指導者 18 名、

担当指導員：山口・西河内・勝股

この日は風もなく温かい陽の光のさす日となりました。

北総線「北国分駅」に集合し、参加者を 3 班に分けて担当者が付き、残りの指導員は別の班を作って出発しました。初めの森は住宅地に残った斜面林です。足を踏み入れてみると様々な木々が見られます。しっかりした緑の葉をつけたシロダモなどの常緑の木、葉を落としたイヌシデなどの木々がともに厳しい寒さと乾燥から若芽を守るため幾重にも衣を着せているさまを観察しました。また、コナラの枯れ木にサルノコシカケの仲間がびっしりと付いているのを見て、触って、そして菌類の働きを確認しました。

続いて堀之内貝塚公園に入ると、そこの陽だまりに生えている笹の葉に、オオカマキリの卵鞘がいくつもありません。卵を冬の寒さから守るために、発泡スチロールのような布団でくるんでいるのを観察していると、「あっ、子どもが出てる！」という声がしました。ルーペで見るとなんと赤ちゃんが、卵鞘のそばに数匹います。今年の暖かさで出てしまったものだろうが、餌を食べることが出来ないだろうとかわいそうになりました。さらに歩いていくと、貝殻がたくさん落ちています。ここは堀之内貝塚で、皆で貝殻を見ながら遠い昔の人々の暮らしに思いをはせました。

台地を下り、外環道を超えてじゅん菜池緑地に入りました。ここは、豊富な地下水がたまった池で、イノカシラフラスコモがあります。昭和 32 年に井の頭公園で見つかりそこ以外では、このじゅん菜池でしか見られない。また、この池はかつてジュンサイも取れた貴重な場所ということです。今では増やすための試験的な取り組みをしているそうです。ハンノキが花粉を飛ばしている様子や、良い香りを放っているウメを見ながら池のそばの道を歩いていると、カワセミがその宝石のような姿を見せました。「きれい。」と、皆 感激しました。

さらに進むと、広い池にたくさんのカモが浮いていました。お腹が赤茶色のハシビロガモ、頭が赤褐色で額から頭頂がクリーム色のヒドリガモ、黄色いパンツで小柄なコガモもいます。オスはよく目立つのですが、どのカモもメスは、地味です。オスとメスの違いの訳なども考えながら、皆じっと水面のカモたちを見つめました。よく観察するとオスとメスがペアになっているようです。冬鳥のカモたちの 1 年の生活を考えながら、このカモたちが、首尾よく良いパートナーに巡り合え、体力をつけて無事に北の大陸へと戻って、命をつなぐことが出来るよう念じました。池の傍を歩いていくと、ヒドリガモが多数芝生に上がって、盛んに餌を食べていました。足を含めて全身が良く見え、またくちばしの動きなど見ていると飽きない。最後に参加者からは、口々に、冬の自然を満喫した半日だったという感想がありました。



泳ぐヒドリガモの夫婦